

# 2019 年度事業計画

一般社団法人日本分析機器工業会

# 2019 年度事業計画

(2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで)

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの期間、一般社団法人日本分析機器工業会が実施する事業計画を次のとおり定める。

## I. 工業会基本方針

1. 委員会事業の連携強化と成果の還元
2. 国内外の諸団体とのグローバルな連携強化
3. 情報の受発信の充実
4. JASIS の更なる飛躍
5. 会員各社の連携によるソリューション提供

## II. 2019 年度事業計画の重点ポイント

### 1. 「技術力向上」に向けた産学官連携の強化を図る。

工業会として、持続可能な開発目標（SDG s）の達成に向けた様々な活動や産業・社会におけるデジタル革新、新規産業創造に取り組む R&D 分野の技術革新及び生産性の向上に対応した最先端機器・関連製品を開発、製造し提供することを支援するため、関係省庁、公的機関、大学及び産業界との産学官ネットワークの、さらなる拡大、深化を図る活動を盛り込むこと。

### 2. グローバル化の更なる推進を図る。

JAIMA の戦略的なグローバル化を推進するため、海外市場や海外関連団体動向の調査・関係委員会間での情報共有を図るとともに、JASIS のグローバル化、情報の受発信のグローバル化など、各委員会が有機的に連携し、必要な施策を立案し、従来事業の見直しを図ること。

また、これまで築いてきた ALDA-Eurom II-JAIMA 等との関係を始め、アジアの友好団体との連携も強化、発展させ、相互にメリットのある活動を盛り込むこと。

さらに、会員企業の新興国等におけるブランド力向上につなげるため、海外の展示会において工業会会員連携型で行う出展を支援する活動を盛り込むこと。

### 3. 情報の受発信の充実を図る。

国等への政策提言を進めるとともに、その施策や規制、税制、新しい技術などの情報を、各種セミナー等の開催や Web の活用等により、いち早く会員企業へ提供すること。工業会統計の更なる充実を図り、会員企業の事業発展に資する的確な情報を提供すること。

工業会の活動を海外に向けて発信することにより、国際的なプレゼンスを高めるとともに、JAIMA Season や Web などの広報関係の充実を図り、情報の受発信をタイムリーに行う事業を盛り込むこと。

#### 4. JASIS の更なる発展を図る。

展示会委員会を中核として、関連委員会と連携して JASIS の更なる発展に向けた施策を実施していくこと。その際に、JASIS の 新成長分野として位置付ける特別企画「ライフサイエンスイノベーションゾーン」や、会員企業連携型のソリューション提案の場として位置付ける特別企画「オープンソリューションフォーラム」などの取り組みを始め、JASIS の更なる発展を目指す事業を盛り込むこと。特に、新規の取り組みとして、JASIS 幕張を時間的、地理的に補完する WebExpo の実施に積極的に取り組むこと。

また、新規の取り組みの評価・本格実施や、JASIS 展示と同時に開催しているコンファレンスなどの併催事業の評価・改善のほか、「JASIS の将来の在り方」の検討など、来場促進やさらなる JASIS 発展のための取り組みを強化すること。

#### 5. 会員各社の連携によるソリューション提供の強化

広範囲な分野で展開されている分析技術のニーズや課題、そして近未来市場を的確に捉え、会員企業が協力してユーザーへのソリューションを提供する取り組みを強化すること。

### Ⅲ. 委員会別活動計画

#### 1. 企画戦略会議

(1)(2)予算額 60 千円 (前年度 60 千円)

理事会の諮問機関として、事業計画及び予算案の策定をはじめ、理事会の特命事項の検討と具体化推進を図ると共に、各委員会事業の進捗をモニターし、工業会全体として事業計画を円滑に遂行することを目的として、次の事業等を実施する。

#### (1) 委員会事業のモニタリング/コーディネーション及び成果の確認

##### ①委員会事業のモニタリング/コーディネーション

企画戦略会議開催時に常設委員会の活動のモニタリグ報告を行い、必要に応じ委員会事業活動内容の調整や支援を実施する。

##### ②正副委員長会議の開催

正副委員長会議を開催し、委員会事業活動内容の共有化と意見交換を通じた連携強化の推進を図る。

- ・第1回：平成30年度事業報告と2019年度事業計画の共有化（8月）
- ・第2回：2019年度事業中間報告と委員会連携事項の共有・確認（2月）

### ③委員会事業活動の成果の確認

前年度及び今年度の事業成果を取りまとめ、理事会等へ報告する。

- ・第1回理事会（4月）：平成30年度委員会事業報告
- ・第6回理事会（11月）：2019年度委員会事業中間報告
- ・新年代表者懇談会（2020年1月）：2019年度委員会事業中間報告
- ・2019年度委員会事業報告の最終まとめ（2020年3月末）

## (2) 国内外の諸団体との連携強化

### ①国内諸団体との連携強化

日本臨床検査薬協会その他の医療機器関連団体と IVD・MD 会議（体外診断用製品）等を通じて行う薬機法規制への対応、IVD の医療業界での地位向上及び国際競争力の強化を実現するため、医療機器委員会の施策を支援する。その他、必要に応じ、国内諸団体との連携強化や調整を推進する。

### ②海外諸団体との連携強化

#### A.新たな連携先の構築

新たな連携すべき海外諸団体の妥当性評価を行い、連携を推進する。

#### B.既存海外連携先に関する活動

ALDA(米国)、EUROM(欧州)等の海外連携団体との会合等を通じた統計交換および将来展望や発展についての情報・意見交換、セミナー実施等を行う技術委員会、国際委員会、展示委員会、統計委員会等の委員会活動を支援する。また、既存海外連携先との連携状況を評価し、必要に応じ連携内容の改善を図る。

## (3) 展示会企画戦略小委員会

(3)予算額 40 千円（前年度 40 千円）

JASIS 中期戦略検討特別委員会の活動を継続・発展させ、展示事業を取り巻く課題への対応、JASIS 新企画の評価及び今後の検討、JASIS の向かうべき中長期的な将来像を横断的に検討する。

(想定する活動内容)

- ①JASIS コンファレンスの在り方、グローバル化対応、他展示会との連携等現在の JASIS の課題への対応策を検討、提案する。
- ②新企画(JASIS Web Expo, 関西 JASIS) や特別企画 (LSZ, OSF) の評価と今後の進め方について検討、提案する。
- ③「10年後の JASIS 目指すべき姿」について議論し、提言をまとめる。

#### (4) ライフサイエンス市場研究会

予算額 3,360 千円 (前年度 3,560 千円)

別途 JASIS 関連予算額 1,600 千円 (前年度 1,300 千円)

会員企業の将来世代の柔軟な発想、情報収集力等のポテンシャルを活用する研究会活動を実施し、創薬や機能性食品開発等のライフサイエンス市場で ICT を駆使した分析機器産業の新たなポジションを築くための具体的成功事例の創出や、本研究会活動を通じての他産業等との連携強化、次代の分析機器業界を担う人材の育成を図るための事業を実施する。

特に、バイオ医薬品開発の急速な新展開を中心に、国内/海外製薬企業とのパイプラインを強化し、JAIMA 発のオープンイノベーション・プラットフォームの提供など国内分析機器技術の導入を加速する仕組みを構築することを目指す。

(具体的な研究会活動内容)

##### ①情報収集活動・内部セミナー

研究会メンバー同士での議論だけでなく、外部の団体が実施しているセミナー等に参加し、情報入手・関係構築を図る。また、最先端のライフサイエンスに関わる専門家を招へいし、内部向けのセミナー（勉強会）を実施する。

##### ②対外企画

- ・ JASIS 2019 LSZ
- ・ Pittcon 2020 JAIMA ジョイントセミナー
- ・ アライアンス懇親会（マッチングパーティー）
- ・ ライフサイエンスセミナー
- ・ HTS(High-Throughput Screening)研究会をはじめ製薬会社等とのオープンイノベーション交流・連携

#### (5) JAIMA 設立 60 周年記念準備委員会

(必要経費は 2020 年度に計上予定)

2020 年 8 月に設立 60 周年を迎える当工業会の 60 周年記念事業の実施準備のため、当準備委員会において記念事業の準備活動を行う。2019 年総会後は、新たに設置される「60 周年記念事業実行委員会」に業務を引き継ぐ。

- ①記念誌に関すること（記念誌内容、制作準備等）
- ②記念行事に関すること（式典日程等）
- ③表彰（感謝状贈呈等）に関すること

## 2. 技術委員会

予算額 8,140 千円 (前年度 11,440 千円)

別途 JASIS 関連予算額 5,300 千円 (前年度 7,200 千円)

分析機器の品質、性能の改善向上及び分析技術の開発向上等を目的として次の事業を行う。

### (1) JASIS コンファレンス

JASIS 2019 で実施する以下の企画の企画・運営を行う。

①JASIS コンファレンス(他団体連携セミナー、シンポジウム等の企画・運営)

②JAIMA 技術委員会主催行事

③JAIMA シンポジウム

④JAIMA セミナー

## **(2) グローバル交流**

①JASIS 2019 における国際技術セミナーの企画・運営

・ RSC-TIC コンファレンス

②JASIS 2019 のグローバル交流ゾーンにおける留学生等との交流の場の企画・運営

③海外の関係団体との技術交流

・ 海外技術セミナーの企画・実施

・ 海外調査員派遣

## **(3) 技術普及・調査**

①JASIS コンファレンス等の企画に係るテーマ選定/講師選定を行うための調査活動及び海外技術調査

・ JASIS 2019/JASIS コンファレンス (RSC-TIC コンファレンス、JAIMA セミナー等)、OSF  
・ 海外セミナー開催、技術調査 (Pittcon 2020、analytica Vietnam、ASEAN フードコンファレンス、BCEIA Beijing 参加。)

②分析機器に関する技術動向調査の実施、各種政策提言

## **(4) 分析機器の手引きの発行等**

①最新「分析機器の手引き」の改訂作業を完了し、JASIS 2019 会場配付及び JAIMA Web 公開を行う。また、「分析機器の手引き」の多言語化の一環として 2019 年度は英語化に着手する。

②JAIMA 設立 60 周年事業の一環として作成する記念誌に収録する分析機器年表の編纂に取り組む。

## **(5) 次世代人材育成支援**

①高校生を対象とする分析機器講習会を企画及び開催運営する。

・ サイエンスサマースクール開催 (7月)

②早稲田大学において JAIMA 協力講座「素材機器分析評価」を開講する。

・ 早稲田大学院 JAIMA 講座開催 (4月～8月)

## **(6) 他団体との連携**

他団体の実施するセミナー、JASIS における他団体との連携企画を通じ、分析機器業界の認知度の向上を図るとともに、技術情報交換・技術動向調査を行う。また、学振、NEDO、JST、産総研等国の研究開発実施機関等との連携を図る企画を行う。

①JASIS における他団体との連携企画 (9月)

②日本化学会フェスタでのセミナー (10月)

### 3. 環境委員会

予算額 2,400 千円（前年度 2,400 千円）

分析技術・機器に関する規格・標準化の推進及び規制への的確な対応を目的として次の事業を行う。

#### (1) 規格・標準化事業の推進

##### ①国内規格

- ・ JIS 規格原案作成を行う。
  - a. JIS K 0115 吸光光度分析通則改正原案作成
  - b. JIS K 0133 高周波プラズマ質量分析通則改正
  - c. JIS K 0116 発光分光分析通則改正
- ・ 外部団体の標準化委員会に参加し、規格化の協力及び情報収集を行う。
  - a. 一般社団法人産業環境管理協会
  - b. 一般社団法人日本試薬協会
  - c. 一般社団法人日本環境測定分析協会等

##### ②国際規格（ISO/IEC）

- ・ JAIMA による国際標準化の実現（国際標準開発（経済産業省事業）を実施する事業者への応募）。
- ・ 外部団体の標準化委員会に参加し、規格化の協力及び情報収集を行う。
  - a. IEC/TC111/WG3（電気・電子機器、システムの環境規格における電気電子機器中の化学物質等測定方法）
  - b. ISO/TC146/SC6（室内空気関連）
  - c. ISO/TC147/SC2（水質の物理的・化学的・生物化学的測定方法）
  - d. ISO/TC61/SC5（プラスチックの物理・化学的性質の試験方法）
  - e. ISO/TC61/SC14（プラスチックの環境側面関連）

注）IEC：国際電気標準会議； ISO：国際標準化機構； TC：技術委員会； SC：分科委員会

##### ③工業標準化事業表彰申請

##### ④経産省産業技術環境局国際標準課との関係強化

#### (2) 会員製品の環境法規適合のための情報発信等

##### ①医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会(Cat8/9 連絡会)活動への参画

- ・ 欧州 RoHS 指令の附属書IVの除外規定延長についての Cat8/9 連絡会タスクフォースによる適用除外申請のとりまとめ
- ・ 国内外化学物質規制等に関するパブリックコメントへの対応

##### ②Cat8/9 連絡会主催環境セミナー実施による会員への情報発信

##### ③在欧日系ビジネス協議会（JBCE）との連携強化

##### ④GAMBICA/RINA/SPECTARIS/Eurom II など海外の関連工業会と化学物質規制対応について連携強化

### **(3) 会員への環境規制・標準化関連の情報提供**

①環境規制関連事項についての会員向け講演会の開催

②会員向け情報提供

- ・廃棄物規制・化学物質規制（RoHS・REACH・GHS・電池関連）・省エネ規制（エコデザイン）関連情報の提供

③情報収集

- ・国内・海外化学物質規制情報収集
- ・国内・海外標準化情報収集

### **(4) 見学会の実施**

先端研究所等の見学会実施

### **(5) 会員への環境分析に関する情報提供**

①「流れ分析セミナー」の（一社）日本環境測定分析協会との共同開催

②日刊工業新聞等への記事執筆

③分析機器の手引き資料編Ⅲの改訂

## **4. 労務委員会**

予算額 210 千円（前年度 210 千円）

各社の労働条件に関する情報交換や事例研究を通じて、人事・労務制度改定や制度構築に資することを目的として次の事業を行う。

### **(1) 主要労働条件に関する調査・研究**

人事・賃金制度、労働時間制度、退職金・年金制度等主要労働条件に関する調査・情報交換・事例研究を行う。

### **(2) 会員企業の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催**

労務・人事担当者を対象に、人事労務関連テーマの会員向けオープンセミナーを実施する。

### **(3) トピックス的信息交換**

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し随時情報交換、意見交換を行なう。

### **(4) 異業種交流会**

他業界での人事関連制度に関する調査および情報交換を行う。

## **5. 知的財産委員会**

予算額 450 千円（前年度 450 千円）

分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的とする会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換を推進することを目的として、次の調査活動及び情報交換を行う。

### **(1) 分析機器に関する知的財産権関連情報交換**

①会員企業間の有用な知財関連情報交換を行うため、知的財産委員会を開催する。（開催予定回数：5回）

- ②分析機器以外の事業分野の知財部門を訪問し、その知財管理実務の見学・質疑応答を行い、参加企業各社の知的財産戦略に反映する。(開催予定回数：2回程度)
- ③知的財産権に関連する実務を推考する上で有用な知識及び情報の共有化を図り、併せて会員企業の若手実務者のスキルアップを図るため、実務小委員会を設置し、調査活動を行う。活動成果は積極的に開示し、会員企業の実務推考に役立ててもらおう。(小委員会開催予定回数：6回以上)
- ④先端医療分野に関する各国の知財制度、判例の研究を行う。(開催予定回数：6回以上)

## (2) 知的財産権に係る行政機関（特許庁）との交流・情報交換

特許庁審査官を知的財産委員会に招き、行政と会員企業間の交流・情報交換を行う。併せて、特許庁アンケートへの協力、特許庁に対する要望の提出、改正法の説明会の開催を行う。

## (3) 海外調査の実施

海外調査団を派遣し、知財に関する司法・行政機関等を訪問して情報収集を行う。

## (4) 知的財産権講演会開催

知的財産権に関連する著名な実務者（弁護士、弁理士、企業実務者等）を講師に招き、会員企業向けの講演会を開催する。

## 6. 国際委員会

予算額 3,750 千円 (前年度 3,680 千円)

別途 JASIS 関連予算額 6,630 千円 (昨年度 7,100 千円)

分析機器産業のグローバル化と JASIS の国際化に対応することを目的として、次の事業を行う。

### (1) JAIMA のグローバル化

#### ①海外友好協力団体との連携強化

A. 欧米友好協力団体との連携強化と交流推進

〔対象〕 ALDA (米国)、Eurom II (欧州：GAMBICA (英国)、SPECTARIS(独) ほか)

B. アジア友好協力団体との連携強化と交流推進

〔対象〕 中国 CAIA、韓国 KSIIC、台湾 TAITRONICS、シンガポール Separation Science Eclipse、ベトナム VINALAB、インドネシア ECMI、タイ TISTR、インド IAIA 他

C. 海外展示会主催団体との交流推進

〔対象〕 Pittcon、メッセミュンヘン他

#### ②JAIMA の海外向け情報発信と国際的プレゼンスの向上

A. 新興国における会員企業の連携による Japan パビリオンの出展やソリューションセミナー開催等による JAIMA のプレゼンスと日本企業のブランド力向上

〔対象〕 インド analytica(ムンバイ、ハイデラバード) 他

B. 海外展示会での JAIMA 主催フォーラム開催

〔対象〕 Analytica、中国 BCEIA、インド P-MEC 等

C.各国在日大使館や海外マーケティング・メディア機関と連携して海外企業・ユーザー向け情報発信とプレゼンス向上を図る。

### ③JASIS グローバル化とアジアのハブ展化

A.海外展示会派遣計画に基づき海外展示会に要員を派遣し、JAIMA ブース出展等による海外企業及び団体の JASIS 出展促進、新規友好協力団体の開拓を図る。

中国、韓国、タイ、インドネシア、シンガポール、インド、米国、南アフリカ共和国、UAE 等

B.JASIS のアジアのハブ展化を目指し、アジア各国からの集客増を計るべく、中国、韓国、台湾、シンガポール、ベトナム、タイ、インドなど) の分析機器関連友好協力団体を訪問し JASIS への出展・来場の勧誘活動を行う。

C.JASIS WebExpo の P R を通じた海外出展社の取り込み

### (2) 輸出管理に関する情報収集と啓発活動（輸出管理小委員会）

A.小委員会開催し情報交換・情報収集と会員に対する啓発活動を行う。

B.経済産業省と協力、日本電気計測工業会と共催で安全保障貿易管理説明会開催。

C.輸出管理、安全保障貿易管理に関する会員向けセミナー開催。

### (3) 海外市場における分析機器市場調査

A.海外団体との会議での市況情報や分析機器市場データ収集

B.JASIS 国際コンファレンスセッションにて海外団体講演者による市場動向に関する発表を行う

C.海外展示会派遣時に市況情報の調査を行う。

## 7. 医療機器委員会

予算額 8,550 千円（前年度 8,050 千円）

体外診断用医療機器（IVD 機器）の発展のための施策実現とその推進を目的として次の事業を行う。

### (1) 医療機器関連他団体との連携

①(一社)日本医療機器産業連合会（医機連）の関連委員会(法制、QMS、環境、販売・保守、企業倫理、UDI、PMS、技術、国際政策戦略、臨床評価)に参画し、情報収集と分析工の意見を反映する活動を行う。また、薬機法関連、欧州指令等について他の委員会とも連携をとり、会員への情報提供・調査等を行う。

②(一社)日本臨床検査薬協会(臨薬協)との IVD-MD 会議を通して、情報/意見交換や共通の課題について検討を行う。特に、IVD の地位向上に向けた活動を継続して推進する。

③動物用医療機器に関連する法規制検討に向け、関連省庁および団体との連携をとり、情報収集と JAIMA 意見の反映を図る。

## (2) 臨床検査の標準化

- ①(公社)日本医師会、(一社)日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理調査事業を支援するため、「臨床検査精度管理調査測定装置コード表」の改訂を行う。一昨年度開発に着手した会員企業が改訂作業（装置追加・削除・修正）を直接行うことが出来る Web システムの運用を年度後半に開始する予定。
- ②海外規格に関する国際会議への参加等による最新の情報入手及び会員への情報提供を行い、体外診断機器の分野での国際整合（JIS 化）に貢献する。
  - ・ I E C 国際会議への参加
  - ・ 安全・EMC 規格小委員会の定期開催による情報交換と審議

## (3) 国際活動

- ①関連団体との情報交換活動等により、海外新規制に関する情報の迅速な入手と会員企業への展開を図る。また AHWP 定例会議に参加（年 1 回）し、アジア地域の医療機器規制の動向を調査し、IVD の国際的な地位向上に貢献する。
- ②ISO/TC212(臨床検査と体外診断検査システム)、ISO/TC210 等医療機器に関する国際規格審議に参加し、国内意見の国際規格への反映を図る。
- ③MedTech Europe（欧州）、AdvaMedDx（米国）等海外の IVD 工業会との会合を通じて、海外法規制・市場動向等に関する情報収集、IVD 事業の将来展望や発展について情報・意見交換を行い、情報の会員企業への展開を図る。

## (4) ライフサイエンスイノベーションへの取組み

診断技術に関する勉強会を年 1 回開催する。

## (5)公正取引の徹底

医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部で医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動等を行う。また、公正競争規約インストラクターを養成する。

- ・ 支部会の開催（6 回／年）
- ・ 新インストラクター養成研修会の実施（80 名～120 名）（2 回/年）
- ・ インストラクターフォローアップ勉強会実施（50 名～100 名）（2 回/年）

## 8. 広報委員会

予算額 9,070 千円（前年度 9,470 千円）

工業会の認知度／知名度向上及び会員サービス向上を目的として次の事業を行う。

### (1) インターネットによる広報

#### ①JAIMA Web の運営（和/英）

JAIMA Web で日本語、英語とも細かなメンテナンスを行い、情報発信力を高めるとともに、時代の変化に適した情報発信に寄与する。

#### ②Web 分析総覧リニューアルの実施

Web 分析総覧の本格的なリニューアルを実施。

### ③会員向けメルマガ「JAIMA 通信」の発行と読者数の拡大

会員向けメールマガジンを月刊で継続して発行し、規制動向等、国内外の情報提供を行う。  
あわせて会員読者数の増加に向けて環境を整備。

### (2) 会報誌の発行

#### ①「JAIMA Season」の定期刊行

会報誌「JAIMA Season」については、年4回の定期刊行を実施する。併せて、工業会内外のステークホルダーに対して適切な情報を発信し、会員サービス、内外ファンづくりに貢献するよう新企画を開始。

#### ②「機器分析が支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」の連載

会報誌「JAIMA Season」の連載企画として「機器分析が支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」を継続実施。

### (3) プレス関係対応

#### ①JAIMA 情報の外部発信

事務局との連携において、社会性、公共性のある鮮度の高い情報をタイムリーに発信し、記事化に努める。

#### ②JASIS（幕張）、JASIS 関西での記者発表の実施

#### ③国内外メディア対応

国内外メディア取材対応およびメディアパートナーシップ（Wiley 社、LABePEDIA 等）有効活用し、JAIMA および JASIS の対外的または国際的認知度向上に寄与する。

### (4) 「工業会案内」の作成

『工業会案内』（和文／英文）を改訂・発行する。

## 9. 展示会委員会

予算額 351,855 千円 (前年度 396,590 千円)

JASIS の開催を通じ、JAIMA の国内外プレゼンスを向上させ、業界発展に貢献することを目的として、次の事業を行う。

### (1) JASIS 2019 (第 8 回) の開催

昨年に引き続きグローバル化と注目度の高い最新の分析ソリューション提供を意識し、6 小委員会と工業会各委員会との連携を図り、JASIS 2019 において各種企画を積極的に企画・実行するなど、更なる展示会の活性化に向けて活動を行う。重点施策として下記①～⑥を実行する。

#### **JASIS 2019 (第 8 回) の開催概要**

開催期間：2019 年 9 月 4 日 (水) ～9 月 6 日 (金) (3 日間)

開催場所：幕張メッセ国際展示場他

開催内容：1)一般展示、2)新技術説明会、3)コンファレンス・セミナー

4)オープンソリューションフォーラム(OSF)、5)ライフサイエンス  
イノベーションゾーン(LSZ)、6)mini/ソリューションコーナー

目標値：・来場者数 (延べ)：30,000 人 ・来場者数 (重複無し)：25,000 人

・出展小間数：1,500 小間 ・出展社数：500 社

#### ①ライフサイエンスイノベーションゾーン (LSZ) の企画・実行

ライフサイエンス市場へ特化し、分析機器に求められる新技術に焦点を合わせ、出展社と来場者への付加価値向上を図るべく、基調講演と展示を実施

目標値：出展社数：80 社、総来場者数：10,000 人以上"

#### ②オープンソリューションフォーラム (OSF) の企画・実行

市場を意識したテーマ性の高い基調講演と出展社発表を組合せたセミナーを実施

目標値：昨年より来場者増をめざす。来場者 (延べ) 2,000 名以上

#### ③新技術説明会、コンファレンスの開催

- ・技術委員会と連携し、2 イベントを幕張で開催。
- ・関連委員会及び関連学会と協力し、JASIS コンファレンスを開催する。

目標値：新技術説明会 300 件以上、聴講者 (延べ) 15,000 人以上

JASIS コンファレンス聴講者 (延べ) 4,500 人以上

#### ④JASIS WebExpo の拡充

出展社募集 (有償) の拡大を図り、会期前後で Web を利用し情報配信を実施。得られた来場者情報の参加出展社への提供、掲載コンテンツの充実等により出展社、来場者サービス向上を狙う。

目標値 ・出展社：30 社 ・閲覧者 (重複無し)：6,000 人以上

## ⑤ J A S I S のグローバル化推進

従来通り関係各委員会と連携し、世界最先端のソリューションの発信を行う展示会として、グローバルなプレゼンス向上のための企画を推進し、海外出展社、来場者増を目指す。

- ・ 公的研究機関に海外から留学している研究者の来場誘致策を実施予定
- ・ 海外メディアとのコラボを通じ、JASIS のアジア地区への知名度向上及び来場誘致を行い海外からの来場者数増を目指す。

目標値：海外来場者数 700 人以上

## ⑥ JASIS 知名度向上（対外活動）

国内外での展示会、学会、イベント等において、積極的に JASIS を PR する。特に海外においては、国際委員会と連携をとり、Pittcon 2019 はじめ主要の展示会、学会へ委員派遣を行う。

## ⑦ 来場者等の Web 管理(新)システムの開発・移行

来場者事前入場登録、出展社申込情報登録等の入力・運用・管理システムは、WebExpo 等の新展示企画の拡充に伴い、登録情報データベースの一本化等の機能改善や、システムのセキュリティ強化、毎年 of システム改修の合理化に加え、来場者・出展社の入力の際の手間の軽減等の対応が必要となっている。そのため、3 年程度の計画（2019 年から 2022 年前半を目途）で、各展示関連事業の共通運用・管理を行う Web 管理システムの開発、移行を行う。

## (2) 「JASIS 2020」(第 9 回) の開催準備

- ① 展示会企画戦略委員会の策定方針を基に、JASIS を充実し、開催する。
- ② 展示会企画戦略委員会の策定方針を基に、各小委員会の役割を強化する。

## (3) JASIS の将来像の検討（継続）

展示会企画戦略小委員会や工業会関係各委員会と連携し、JASIS の将来像を検討する。また、喫緊の課題として、コンファレンスや特別企画（LSZ、JASIS WebExpo、JASIS 関西）の振り返りと今後の方向性の検討を行う。

## 10. 統計委員会

予算額 2,740 千円（昨年度 2,770 千円）

統計情報の会員への提供等を目的として、次の事業を行う。

### (1) 会員の統計データの収集及び配布

四半期毎の生産高、輸出高及び輸入品売上高の会員企業データをまとめ、理事会に報告すると共に公表する。今年度からは、昨年度より検討している輸出高統計の地域別データの会員への提供を実施する。

### (2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

米国 ALDA、欧州 EUROM 等と受注統計データを交換し、世界市場データとして統計参加会員に提供する。

### (3) 新統計システムの見直し

新統計システムの運用上の不具合を把握し、必要なシステム面・運用面の改良を行う。

#### IV. 主として事務局が行う事業

##### 1. 総会、理事会、代表者懇談会、企画戦略会議、正副委員長会議の運営

##### 2. 新年懇親会等の会員相互交流の機会の提供

##### 3. 分析機器の生産、貿易に関する動向調査事業

統計委員会と連携し、正会員、賛助会員を対象に、生産高、輸出高及び輸入品売上高を四半期毎に、製品分類別・輸出地域別に調査し、集計結果を公表する。その他、必要に応じ、生産、流通、貿易等に関する動向調査を実施する。

##### 4. 分析機器に係る行政施策実施に対する協力

分析機器に関連する行政施策の実施に関し、関係省庁と連絡を密にし、省庁からの各種調査依頼に協力するとともに、会員に必要な情報を提供する。また、環境関係法令、薬機法令、安全保障貿易管理令等の改正等に関する情報については、関係委員会等を通じ会員に必要な情報を提供する。必要に応じ、規制緩和等の法令等の改正への対応を行う。

##### 5. 工業会ホームページによる情報発信の充実

広報委員会と連携し、JAIMA ホームページのコンテンツ充実を図り、委員会情報をはじめとする工業会諸活動の状況をタイムリーに発信する。

また、行政機関、独立行政法人等の通達、発信情報のうち、会員のビジネスに役立つ情報をピックアップして会員向けにタイムリーに提供する。

##### 6. 中小企業経営強化税制・固定資産税特例に関する証明書発行事業

予算額 1,400 千円（前年度 1,400 千円）

政府の中小企業経営強化税制・固定資産税特例制度に協力し、分析機器に関する生産性向上仕様等証明書を審査、発行する。

##### 7. 団体 P L 保険制度を継続実施

分析機器に関する製品安全化事業として一般より有利な国内及び輸出向け団体 P L 保険制度を継続実施する。

##### 8. 他団体主催展示会、シンポジウム等への協賛・後援名義等による支援

工業会に関係する他団体主催の展示会、シンポジウム等に対し協賛名義、後援名義等により協力・支援する。

##### 9. 顕彰等に関する事業

(1) 国、公共機関、団体等が行う叙勲、褒章、大臣表彰その他の表彰制度情報を会員に提供し、必要に応じ候補者の推薦と資料作成等を行う。

(2) (公社)日本分析化学会先端分析技術 JAIMA 機器開発賞に引き続き協力する。

##### 10. 分析機器工業の経営実態調査

分析機器工業の経営実態を把握するため、会員の実態調査を実施する。

以上